

宇宙を旅するバスに乗って—カミジョウミカさんと見る“カラフルな夢”

工場の通勤バスが宇宙船に变身！？

トヨタ自動車の工場で使われている通勤バスが、まるで宇宙船のように生まれ変わりました。そのワクワクする光景の裏側には、アートの力で地域と工場をつなげたいという想いがあります。

アートで彩る「動くキャンバス」

この取り組みは、社有バスにアートをラッピングすることで、工場や地域をもっと身近に感じてもらおうというもの。

今回ラッピングを手がけたのは、鮮やかな色彩とユニークな世界観で注目を集めるエイブルアート・カンパニー登録アーティストのカミジョウミカさん。「宇宙を飛び回るカラフルモジャリコ」と名付けられたバスを、カミジョウさん本人と一緒に見学する機会を持ちました。



「宇宙」をテーマに始めた想い

「テーマは“宇宙”です。工場で作られているエンジンやトランスミッションの歯車の形や生産ロボットアームを見た時に、宇宙船や宇宙機に見えました。

夢に出てきたキャラクターと一緒に自由に宇宙を飛び回るイメージで描きました。」とカミジョウさん。遠くからでも目を引く鮮やかな色使いと、近くで見ると細部に遊び心のあるデザインが、日常に彩りを添えています。



制作の舞台裏と感動の瞬間



「同じ長野県出身のアーティスト、草間彌生さんのラッピングバスが松本市内で走っているのを見て、いつか自分の作品もバスになるといいなと夢見ていました。全長約7メートルのバスの大きさは想像しにくく不安もありましたが、思い切って自由に描きました。」

完成したバスを目の前にしたカミジョウさんは、「お気に入りの部分（絵の具を筆で散らして星を表現した部分）も原画通りに表現されていて、感動しました。」と語ります。

「描くことは生きること」

カミジョウさんは先天性の疾患を持って生まれて、中学生の時に車イス生活になり、19歳で寝たきりになりました。入院先のベットの上で出来ることが絵を描くことだったそうです。「入院先で医療スタッフの似顔絵を描き始めたら、とても喜んでいただき、何枚も描いてナースステーションで似顔絵個展をしていただいたことが励みとなって絵を描くことが生きる糧になりました。絵を描く原点です。」と話してくれました。

この取り組みを通じて伝えたいこと

「バスを利用する人や地域の方々に、作品を見て気持ちが明るくなったり、楽しい気分になつもらえたなら嬉しいです」

カミジョウさんの言葉には、アートを通じて人々に元気を届けたいという想いが込められています。

工場の通勤バスにアートを走らせるこの取り組みは、単なる移動手段を超え、地域に彩りを添える存在になっています。

見かけた際には、ぜひそのアートに込められた想いを感じてみてください。



カミジョウミカさんのプロフィール、作品は[こちら](#)

